

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大谷口小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	国語科では、既習漢字を文中で正しく使う力に課題が見られた。算数科では、「数と計算」領域における小数・分数・四則混合の計算に課題があり、社会科では地図記号や地理的環境の理解、資料の読み取りに改善の必要があった。理科では、「粒子」「生命」領域などを苦手とする児童が多い。 次年度も引き続き、「ドリルパーク」や問題集などのドリル類を活用し、国語・社会・算数・理科を中心に練習問題へ取り組み、知識・技能の向上をめざす。また、朝の時間を活用して漢字練習や四則計算に取り組み時間を設け、反復練習を行うことで基礎学力の向上をめざす。
思考・判断・表現	国語科では、「話す・聞く」「書く」の領域において、自分の考えを根拠に基づいて筋道を立てて表現する力に課題が見られた。算数科では、「図形」領域の図形の構成理解や展開図の理解を苦手とする児童が多かった。社会科と理科では、既習事項の定着や、前の学習内容と関連づけて考える力に課題が見られた。 次年度も引き続き、授業の中で自分の考えや意見をじっくりと考える時間を確保するとともに、発表の際には根拠を明確にし、相手に分かりやすく伝える活動を取り入れることで、思考力・判断力・表現力の向上をめざす。

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> ・算数科「変化と関係」「図形」、社会科「現代社会の仕組み」「歴史と人々」、理科「エネルギー」において課題が見られた。 <指導上の課題> ・児童が反復、習熟学習を行う時間の設定が不十分である。	・ICTを活用した繰り返しの学習や家庭での学習を充実させていく。スタディサプリやドリルパークを活用して復習問題を解く時間を設定する。【各単元】 ・各単元テストを行うときに、スクールダッシュボード内で授業の振り返りを行い、児童の各単元での学習の様子を確認する。不安が見られる児童へは休み時間等に個別対応を行う。【各単元】
思考・判断・表現	<学習上の課題> ・国語科「書くこと」、算数科「データの活用」において課題が見られた。 ・自分の言葉で自分の考えを表現する力が欠けている。 <指導上の課題> ・自分の意見や考えを考慮する時間の確保、考えたことを表現する場の設定が不十分である。	・授業の中で、自分の意見や解き方を考える時間を取る。ペアでの対話や小グループでの対話を取り入れ、自分の考えを表現する場を作る。【毎時間】 ・各単元テストを行うときに、スクールダッシュボード内で授業の振り返りを行い、児童の各単元での学習の様子を確認する。不安が見られる児童へは休み時間等に個別対応を行う。【各単元】

全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
<小6・中3>(4月~5月)

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	朝の時間やテスト前、家庭学習の場面では、「ドリルパーク」「スタディサプリ」、各種ドリル類を活用し、国語・社会・算数・理科を中心に練習問題に取り組み、復習を行った。児童は十分に練習を重ねたことで、自信をもってテストに臨む姿が多く見られた。 また、スクールダッシュボードを用いて各単元ごとの振り返りを行うことで、児童の思いや考え、悩みを把握することができた。悩みや不安を抱えている児童には即座に個別対応を行い、不安を感じる児童を減らすことにつなげることができた。
思考・判断・表現	B	各教科の授業では、自分の考えをもつための「一人学び」や、一人でじっくり考える時間を多く取り入れてきた。児童は、ノートやプリント、オクリンクプラスなどを活用して自分の考えを表現したり、ペア活動やグループ活動を通して互いに考えを発表・共有したりすることで、新たな発見や気付きを得る姿が多く見られるようになった。一方で、発表の場面においては、相手に分かりやすく伝えるための資料の工夫、文章構成、話の組み立てなどに課題が残った。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「情報と情報との関係づけ、図などによる語句と語句との関係の表し方」の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、図に書かれていることを整理し、事柄と関連付けで考えることへの理解が不十分であると考えられる。算数では、「台形の意味や性質の理解と数直線の読み取り」の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、上の辺が長い四角形や左右に向かい合った四角形を台形と捉えることや、数直線上に示された分数を単位分数の幾つ分として捉えることへの理解が不十分であると考えられる。理科では、「身の回りの金属の性質」の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、金属の共通する性質として、電気を通すという知識の定着が不十分であると考えられる。
思考・判断・表現	国語では、「自分の目的や意図に応じて、相手から聞きたいことを引き出すために分類したり、関係付けたりして考える」の問題に課題がみられた。解答類型を見ると、相手から聞きたいことを整理することが苦手であることが考えられる。算数では、「分数の加法についてやグラフの読み取り」の問題に課題がみられた。分母が異なる分数では、通分することは理解しているが、活用問題を苦手としている。また、資料の読み取りにも課題がみられた。理科では、「電気の回路のつくり方と植物の発芽の差異点や共通点を基に新たな問題を見いだす」の問題に課題がみられた。授業の中で自分の考えをまとめる場、発表する場を多く設け、その振り返りを確実に学習を今後も継続していく必要がある。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語科では、さいたま市平均に近い結果が見られた。文中の主語と述語の関係を理解している児童が多い一方で、既習漢字を文中で正しく使うことに課題が見られた。 算数科では、全体として低調な結果となり、「数と計算」の領域に課題があった。特に、小数や分数、四則が混合した式の問題を苦手とする児童が多かった。今後は朝学習の時間を活用し、四則計算の反復練習を行うことで計算力の向上を図る。社会科では、「地理的環境と人々の生活」の分類、世界における日本の位置、地図記号、資料の読み取りに課題が見られた。理科では、算数と同様に全般的に低調な結果であり、「粒子」「生命」を柱とする領域で課題が顕著であった。一方、直近で学習した単元については、学習状況調査(1月)でよく解けていた。今後は既習内容を生かした授業改善を図り、児童の記憶に定着する学習活動を充実させていく必要がある。
思考・判断・表現	国語科では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域に課題が見られた。自分の考えを相手に伝えるように、理由や事例を挙げながら話の構成を考えると苦手な児童が多かった。来年度は、自分の考えを根拠に基づいて述べる活動をより多く取り入れていきたい。算数科では、「数と計算」「図形」「データの活用」の領域に課題があった。特に図形の構成や展開図の理解を深めるため、折り紙などの具体物を活用した授業を充実させる必要がある。社会科では、5年生の「現代社会の仕組み」やたらきと人々の生活」、6年生の「歴史と人々の生活」の分野で良好な結果が得られた。理科では全般的に課題が見られたものの、「理科の学習は好きですか」の項目で9%以上、「理科の授業の内容はよく分かりますか」の項目で95%以上と、学習意欲や理解度に関し良好な結果が見られた。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	「ドリルパーク」「スタディサプリ」「問題集等のドリル類」を活用し、国語、社会、算数、理科の教科を中心に練習問題に取り組み、復習をテスト前に行っている。また自ら学習を行っている児童もいる。今後も、児童の学習状況、学習態度を把握し、日々の授業や朝学習の時間、家庭学習等を活用して、計画的に取り組む。また、スクールダッシュボードの振り返りを活用し、児童の様子を把握し、個別対応を行っている。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科の授業の中で、自分の考えをもつための時間を十分確保している。自分の考えをノートやプリント、オクリンクに表現したり、ペア活動やグループ活動を取り入れて取り入れ、自分の考えを発表する場や共有する場を多く取り入れることができている。話し合い活動を通して、意欲的に学習に取り組む姿や課題を自分事として捉える姿がみられるようになってきている。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)